



To 松本エリアのイクママ&イクパパ From 松本市立病院

# 市立病院通信

医療スタッフ  
リレーコラム

【今月の担当】加藤 重人  
松本市立病院 小児科科長  
「先日、歴史好きの息子（歴ガキと呼んでいます）と松本城天守の床磨きのボランティアに行ってきました。早朝だったため、普段目にするの  
できない朝日を浴びてそびえる天守の姿は感動的でした。また機会があれば参加したいです（←息子の作文の定型文です）。」



## 第11回 B型肝炎ワクチンの必要性

■松本市立病院の産科・小児科医師、助産師、栄養士などの医療スタッフが、それぞれ専門の立場で執筆を担当。地域のママ・パパ(ブレママ・ブレパパ)に向けて、お知らせしたい医療情報や旬の話題などを月替わりでお届けします。

10月からB型肝炎の定期予防接種(公費接種)が始まります。「B型肝炎って子どもに感染しやすい病気なの?」と思っていたり、なぜワクチンを子どもに接種する必要があるのかピンとこない方も多いと思います。そこで、B型肝炎ワクチン接種の必要性についてお話をさせていただきます。

### ■ B型肝炎とは

文字通りB型肝炎ウイルス感染による病気です。感染すると**全身倦怠感・食欲不振・嘔気などの消化器症状が出現し、その後黄疸が出たり、肝臓が腫れるなどの症状が出現**します。このような症状を来すものを急性肝炎と言います。しかし、このような症状が出るのは30~40%程度と言われており、中には症状が出ないため気がつかず、たまたま行った血液検査で感染に気付かれることもあるそうです。

また、**乳幼児期に感染した場合は、体の中に侵入したウイルスを排除する免疫の仕組みが未発達なため、感染してもすぐには症状が出ません。でも体の中にはウイルスが存在している状態**になります。このような状態のことを**キャリア**といい、多くのキャリアは10歳以降に肝炎を発症します。たいていの場合は軽いことが多く、85~90%程度は数年で自然によくなりますが、キャリアの状態は続きます。残りの10~15%は**慢性B型肝炎になり、次第に肝機能が低下し、だるさや食欲不振などの症状が出てきます。さらに肝硬変になったり、肝臓がんを発症することもあります。**

### ■ B型肝炎はどのようにして感染するの?

B型肝炎の感染の仕方には次の二つの様式があります。

- **垂直感染(母子感染)** = B型肝炎ウイルスを持っているお母さんから出産時に赤ちゃんに感染すること
- **水平感染** = 体液(血液・精液など)を介しての感染

垂直感染に対しては、1985年から「B型肝炎母子感染防止事業」が開始され、この様式の感染者は著明に減少しています。水平感染も過去には医療従事者の針刺し事故や注射針の使い回し、輸血などからの感染がありましたが、医療従事者へのワクチン接種・注射針の使い捨てなど各種の対策が行われるようになり、ほとんどなくなってきています。そのため、普通に考えるとB型肝炎に新たに感染する人は減るであろうと思われていました。

ところが、**水平感染によってB型肝炎に新たに感染する人は減っていない**そうです。僕が大学時代に教わった知識では、B型肝炎は血液または精液を介しての感染であり、感染血液との接触(針刺し・輸血・刺青など)とキャリアとの性交渉により感染し、日常生活においてそう簡単に感染するものではないというのが一般的でした。

### ■ 水平感染が減らないのはなぜ?

現在、**成人の急性B型肝炎の80%以上は性交渉が原因**と言われています。B型肝炎にはいくつかの遺伝子型があり、かつて日本に存在した多くのB型肝炎ウイルスは急性肝炎になりやすいものの、キャリアにはなりにくい遺伝子型のものでした。

しかし最近では、欧米に多く存在する遺伝子型のもが増えています

ており、急性肝炎の60%を占めるようになってきました。このタイプのB型肝炎ウイルスに感染すると、20%程度はキャリアになってしまいます。そのため、性交渉による感染が増えてきているそうです。

### ■ なぜ乳児期にB型肝炎ワクチンが必要なのか

前項でお話した内容を考慮すれば、性交渉がちらついてくる思春期前にワクチン接種をすればいいんじゃないの?と思いますよね。でも、乳児期に接種しておいた方がいい理由はちゃんとあるんです。ひとつは、**乳児期に接種した方が大人になってから接種するよりも免疫が付きやすい**ことが挙げられます。もうひとつは、**知らないうちに感染する可能性が否定できない**ことです。

かなり前から血液・精液以外からの感染の可能性を示唆する報告はいくつかありましたが、2002年に佐賀県のとある保育園で25人の園児・職員の集団感染が起きてしまいました。B型肝炎キャリアの職員から集団感染が始まった可能性が高いそうですが、すべてがその職員から感染したのではないらしく、感染した園児から違う園児や職員への感染もあった可能性があるそうです。この集団感染は乳幼児へのB型肝炎ワクチンの必要性を認識させる契機になりました。

その後の研究で、**血液・精液以外に涙・唾液・尿・汗中のウイルスで感染する可能性がある**ことがわかってきました。たとえば、お友達にかみついたり、皮膚の傷や湿疹にこれらの体液がついたりして、知らないうちに感染してしまうこともあり得ます。

### ■ B型肝炎ワクチン定期予防接種化の目的

今回B型肝炎ワクチンが定期予防接種化されたのは、水平感染の予防が目的です。日常生活で誰がキャリアかなんてわかりませんし、自分がキャリアだと知らない人もいます。実際に保育園での集団感染の報告もありますので、知らないうちに感染する可能性もないとは言えません。**乳児期にワクチン接種をすることによって、知らないうちに感染することを予防するとともに、将来における性交渉による感染予防にもつながります。**

B型肝炎はワクチン接種で予防可能な病気です。定期予防接種対象のお子さんの接種はもちろんのこと、それ以外の年齢のお子さんのワクチン接種もぜひ検討してみたいと思っています。



松本市立病院  
Matsumoto City Hospital

〒390-1401 松本市波田 4417-180  
TEL(0263)92・3027(代表)  
http://www.hp-hata.com/



- 受付時間 8:15~11:30
- 産婦人科は予約制です。詳細は平日の15:30~17:00にお電話でお願いいたします。
- 小児科では予防接種の受け付けをしています。ご相談ください。